

## 地方創生の原動力はひとづくり

### 未来志向で ビジョン実現をめざす

人口減少時代を迎え、全国各地地方創生の取り組みが進められています。小松市では、国に先駆け平成23年に策定した「10年ビジョン」、そして平成27年策定の「NEXT10年ビジョン」へと、出産・子育てしやすい環境づくりをはじめ、教育、定住促進、バランスの取れた産業の育成など、多様かつきめ細やかな政策により、人口キープやまちのイメージアップに努めてきました。

さらに、本市の強みを「歌舞伎のまち・科学とひとづくり・乗りものまち・環境王国こまつ」の4テーマに層別、市全体で共有して、特色あるまちづくりを展開し、平成28年には5テーマ目となる

「珠玉と石の文化」が日本遺産に認定され、新しい魅力が加わりました。弥生時代にさかのぼる小松の石文化は、地場産業の九谷焼や機械工業の原点ともいえ、先人たちが築いてきた貴重な技と資源を次世代につないでいきます。

こうした取り組みにより、小松市の合計特殊出生率は、平成21年の1・52から平成27年には1・81に上昇し、出産・子育てしやすいまちとして全国トップクラスの高い評価を受けており、市人口についても10年ビジョン策定時に比べ上振れで推移し、人口増へと変化しています。

### 幼少期から 大学・シニアまで 一貫したひとづくり

地域の活力は人であり、教育こ

そが最良の公共投資と考え、世界やふるさとで活躍する「ひとづくり」を市民共創で進めてきました。中でも、短期大学と看護学校を統合し、ものづくり、医療、国際の3学部からなる「公立小松大学」の開学(今年4月)は、「ひとづくり」に寄与するだけでなく、



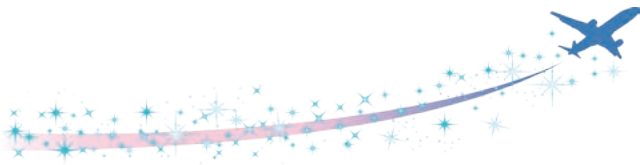
新たな学びの拠点「こまつアズスクエア」

若者が流出する流れを変え、地方創生の原動力になると期待しています。南加賀の地(知)の拠点として、地域の方々にも広く学びの機会を提供するとともに、国内外の大学や企業などとの連携も深めていきます。

幼少期からの一貫したひとづくりでは、認定こども園へのスムーズな移行により、幼児教育から義務教育へと切れ目のない教育を展開するほか、「科学とひとづくり」の拠点サイエンスヒルズこまつを活用した理科・科学大好き青少年の育成、独自の語学教育やICTを活用した教育、「歌舞伎のまち」を支える人材育成、「環境王国こまつ」の里山や食を生かした教育など、市全体を学びのフィールドとする取り組みを展開しています。

### 国際化が急速に進展

本州日本海側最大の小松空港は、日本の真ん中であるロケーションや近年の訪日外国人の高ま



〔小松駅周辺のまちづくりへの表彰〕

- ◆第56回 BCS賞「サイエンスヒルズこまつ」
- ◆2016年 アジア都市景観賞
- ◆平成29年度 土地活用モデル大賞



にぎわいを増す小松駅周辺

りとともに、国際化が進展しています。平成28年度の国際線旅客数は約20万人と過去最多を記録し、国際貨物の総取扱量についても全国7位となっています。国の訪日誘客支援空港の認定を追い風に、国内外の定期便・チャーター便の拡充やLCCの就航促進など、さらなる国際化を進めます。

「環境王国こまつ」のシンボル水郷木場潟は、カヌー・パラカヌーのNTC競技別強化拠点施設の指定を受けており、ニュー

ジーランドやアフリカ・モザンビークの選手団が強化合宿を開始するなど、世界のトップアスリートが集う一大拠点となっています。市では国のホストタウンの登録など、子どもたちの未来への架け橋となる、人、モノ、文化のグローバル交流を進めていきます。

### 進化する小松駅周辺

平成35年春の北陸新幹線敦賀延伸を見据え、小松駅周辺は、新幹線駅や東西広場の整備、高架下の活用、二次交通や地域交通など、南加賀のターミナル機能をさらに高めています。

平成29年12月には、新たな学びの拠点「こまつアズスクエア」が誕生しました。同ビルの建設にはPPPの新たなスタイルを採用し、公民連携のモデルとして全国から着目されています。1階の子育て支援施設「カブッキーランド」は、大型遊具や知育玩具で子ども遊び、学べる「すくすくひろば」や「クッキングスタジオ」、土日祝日も相談できる「子育てスマイルステーション」など、開設以来多くのご家族連れでにぎわっています。

す。同ビルの2階3階は、「公立小松大学」中央キャンパスとなり、人生100年時代を見据えた社会人のリカレントや再チャレンジも応援します。

新幹線時代に向けて、小松駅周辺は「学び」が集積する北陸で際立ったエリアとして、さらなる魅力アップを図るとともに、幼児教育から生涯学習まで、多世代の人材育成と交流拡大を進めます。

### プロフィール

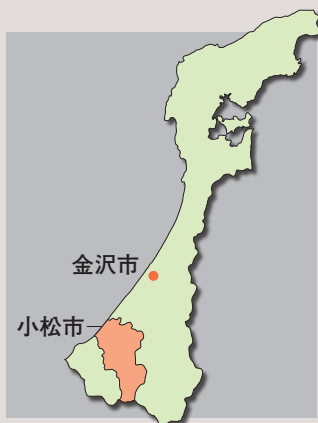
- ◆面積 371km<sup>2</sup>
- ◆人口 10万8593人
- ◆世帯数 4万2652世帯

〔将来都市像〕北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」

〔まちの特徴〕小松空港は全国最多45路線の乗継割引区間が設定され、国際旅客便3路線、国際貨物便2路線が就航、小松駅や市街地とは約4kmと近く利便性が高い。東に霊峰白山を望み、里山の豊かな自然に恵まれたまち



小松市長  
和田慎司



〔特産品〕建設機械、バス、パーティション、繊維、小松りんず、九谷焼、石材、小松とまと、にんじん、小松うどん、塩焼きそば、大麦スイーツ

〔観光〕サイエンスヒルズこまつ、こまつ杜、こまつ曳山交流館、安宅の関、那谷寺、粟津温泉、木場潟から望む霊峰白山、石川県立航空プラザ

〔イベント〕全国子供歌舞伎フェスティバルin小松・お旅まつり（5月）、航空祭（9月）、どんどんまつり（10月）



遊びと学びの空間「カブッキーランド」



小松市イメージキャラクター  
カブッキー

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

## 「JUMPUPもおか」 くだれもが「わくわく」する街づくり

### はじめに

真岡市は、栃木県の南東部に位置し、首都東京から90km圏内にある農業・商業・工業がバランスよく調和した理想的な地方都市です。歴史的には親鸞聖人が関東で布教の要とした高田山専修寺や、二宮尊徳が地域復興に尽力した拠点の桜町陣屋などの文化遺産が保存されています。かつては農業を産業の基盤とするまちでしたが、交通や物流面の整備が飛躍的に進み、



質・量ともに日本一の真岡のいちご

東西を結ぶ北関東自動車道と南北に結ぶ地域高規格道路鬼怒テクノ通りとの連結点となる真岡インターチェンジ周辺には現在91社に及ぶ企業が操業する大規模な工業団地を有するハイテク都市として発展を続けております。

### いちごの街から何かが始まる

いちご王国・栃木県の中でも全国のトップに君臨するのが真岡市です。本市ではこれから春に掛けていちご収穫の最盛期を迎えます。本市のいちごの生産量は年間約7000t、販売額は80億円を超えるなど、生産量と販売額は2位以下を大きく引き離して日本一を誇り、栃木県で開発された人気品種「とちおとめ」や「スカイベリ」などを、市内約460軒の生産農家で栽培しています。本市



ロゴマーク

の気候はいちご栽培に最適であり、質・量ともに日本一の真岡のいちごは、全国の皆さまから大変ご好評をいただいております。直売所や道の駅のみやでの販売はもちろん、冬から初夏にかけて、いちご狩りを楽しむことができます。摘んだばかりの甘味の乗ったフレッシュな果実感は、まさに産地ならではのぜいたくな味わいです。

毎年5月には「真岡いちごまつり」が開催され、生産農家が丹精込めて栽培した甘くておいしい真岡のいちごをご堪能いただけます。12月には「いちごの街から何かが始まる」をコンセプトに「もおか」いちごフェスタ「日本一のいちごの街」を開催し、イベントでは、いちごのスイーツなどを対象にした「いちごコンテスト」などさまざまな催しを行いました。



4台のSLとSLデザインの駅舎が揃う真岡駅

また、平成29年8月には「いちごブランドファンづくり協議会」が発足し、いちご生産の一連の工程を体験する「いちごオーナー事業」が始まりました。全4回開催される事業では、苗の定植から受粉、収穫、加工など親子連れの参加者が農業者のアドバイスを受けながら取り組んでおります。

さらに、日本一の産地として生産をリードする本市を会場として、全国の主要生産地の関係者が一堂に会し、生産技術の向上や消費拡大など、いちごのブランド力を高め将来のいちご産業について

考える「全国いちごサミット」の開催に向けて、現在準備を進めております。

## SLが走るまち

また、真岡といえば、やはりSLです。

真岡鐵道は、蒸気機関車のC11形とC12形が毎週土日と祝日に定期運行する全国でも数少ない路線であり、下館駅～茂木駅間を1日1往復走行しています。SLが市街地を走り、真岡駅には大正時代を代表する蒸気機関車の1つである9600形が圧縮空気を動力源にデモ走行するミュージアム「SLキューロク館」で乗車見学することができます。さらには静岡市からD51形SLを譲り受け、敷地



桜と菜の花の中を走るSL

内に静態展示しています。SLをモチーフにした駅舎とSLが並んだ風景は圧巻であり、鉄道ファンにとってこの地はまさにSLのメッカといえるでしょう。

## BCP策定推進都市を宣言

本市は、平成29年6月、東日本大震災の経験を踏まえ、大規模災害時において優先度の高い業務の執行体制や対応手順、業務継続に必要な資源をあらかじめ選定し、災害に対する対応力の向上と早期復旧を目的とする、BCP（業務継続計画）の策定推進都市宣言をしました。自治体では全国初であり、市や商工会議所は既に策定しておりますが、市全体で取り組むことは、災害に強い安全で安心なまちづくりにつながり、市内事業所などがBCPを策定することによって、顧客からの信頼が生まれ、企業の付加価値が高まること期待できますので、栃木県の支援を受けながら企業などへ計画策定に向けた積極的な支援を行っています。

## JUMP UP もおか

平成29年5月の市長就任以来、

ふるさと真岡市が全国に誇れる都市となるため、市民との「絆」を大切に對話・協働・連携を進めながら、その先頭に立って「選ばれる都市（まち）もおか」の実現をするため、「JUMP UP もおか」そして「だれもがわくわくする街づくり」を目指し、本市の未来を見据えた5つのプロジェクトをまち

## プロフィール

- ◆ 面積 167.34 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 7万9572人
- ◆ 世帯数 2万9141世帯

〔将来都市像〕 JUMP UP もおか  
「だれもが『わくわく』する街づくり」

〔まちの特徴〕 栃木県の南東部に位置し、農業・商業・工業がバランスよく調和した地方都市

〔市町村合併〕 平成21年3月23日、二宮町を編入合併

〔特産品〕 いちご（とちおとめ、スカイベリー）、ナス、ニラ、トマト、タ



真岡市長  
石坂真一



づくりの基本戦略と位置付けて、各種の施策を展開しております。今後も、商工業や農業・観光の振興に積極的に取り組み、特に若者や女性の安定した雇用の確保、結婚や子育て支援のさらなる充実により、若い世代の定住を促進し、これらの相乗効果で新たな「もおかの元氣」を創り出してまいります。

マネギ、真岡木綿

〔観光〕 桜町陣屋跡、二宮尊徳資料館、高田山専修寺、真岡井頭温泉、井頭公園一万人プール、真岡鐵道SLキューロク館、岡部記念館「金鈴荘」、真岡木綿会館、久保記念観光文化交流館

〔イベント〕 真岡の一万本桜まつり、真岡いちごまつり、真岡の夏祭り、久下田祇園祭、真岡の灯ろう流し、尊徳夏祭り大花火大会、SLフェスタ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。